

# 緊急消防援助隊情報

## 平成30年度地域ブロック合同訓練の実施結果について

広域応援室

### 近畿ブロック 合同訓練実行委員会

平成30年度緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練を、福井県の地域特性を反映した災害を想定し、地形や地物を活用して、二日間にわたり実施した。

訓練内容は、要請要綱に基づく要請・出動手順を検証し、活動技術の向上、自衛隊・海上保安庁・警察・DMAT等関係機関を含めた連携活動能力の向上及び応援体制の向上を図ることを目的とし、福井県坂井市を主会場に次のとおり実施した。

#### 1. 実施日

平成30年11月9日（金）・10日（土）

#### 2. 実施場所

福井市、坂井市、永平寺町

#### 3. 実施内容

##### (1) 訓練想定

訓練は以下の想定で実施した。

[第1ステージ(11月9日)]

11月9日(金) 9時00分、福井県嶺北地方を震源とした最大震度6強を観測する地震が発生した。この地震により、福井市、坂井市、永平寺町において建物倒壊、火災、土砂災害等による人的・物的ともに甚大な被害が発生し、福井県内消防機関は広域消防相互応援協定に基づき、県内応援隊を出動させたが、なお消防力劣勢であり、福井県知事は、緊急消防援助隊の応援要請を行った。

[第2ステージ(11月10日)]

福井県嶺北地方を震源とする大規模地震が発生したとの想定により、福井県に進出した緊急消防援助隊及び県内応援隊は9日の活動ミーティングにて活動指示を受け、前日に続き活動を実施するとともに、関係機関との連携を行った。

##### (2) 消防応援活動調整本部等設置運営訓練

想定地震発生後に、福井県庁に消防応援活動調整本部を、福井市消防局、嶺北消防組合消防本部及び永平寺町消防本部に指揮本部及び指揮支援本部を設置し、応援要請等に係る情報伝達、受援調整及び緊急消防援助隊の部隊活動調整等について、ロールプレイング方式により図上訓練を実施した。

##### 《今後の課題》

消防応援活動調整本部において、県災害対策本部と

連絡調整にあたる職員が不足したため、今後は、災害の全体像や消防力の調整を要する被害情報の共有体制を構築する必要がある。



消防応援活動調整本部設置運営訓練（9日）福井県庁

##### (3) 参集訓練及び受援対応訓練

9日は天候不良の中、指揮支援部隊長及び各指揮支援隊は車両で参集し、福井県庁と3消防本部にて受援対応訓練を実施した。

また、統合機動部隊は迅速出動により震央管轄消防本部へ、各府県大隊は県内3カ所を進出拠点として参集訓練を実施した。

##### 《今後の課題》

福井県は、県境を山で囲まれているため、発災時の進出ルートが限られている。また、冬の日本海は荒れることが多く海路による部隊進出は期待できないことなどから、実災害時には迅速に交通情報を収集し、進出可能なルートについて出動各隊へ情報提供する必要があることを再認識した。

##### (4) 部隊運用訓練

部隊運用訓練は、テクノポート福井(坂井市・福井市)をメイン会場とし、永平寺河川公園、県消防学校等をサブ会場として実施した。

訓練1日目は、建設中の列車橋梁、河川敷の斜面、消防学校の施設を活用した実戦に近い訓練を実施し、一部は照明を活用した夜間訓練となった。

訓練2日目には、航空機やドローン、バイク隊による偵察・情報収集訓練をはじめ、実際の居住街区を活用した木造密集地火災消火訓練を消防団や自主防災組



列車橋梁事故救助訓練（9日）北陸新幹線高架橋



主訓練会場全景（10日）テクノポート福井

織と連携して実施したほか、土砂埋没救出や倒壊建物救出訓練のほか、陸上自衛隊や防災ヘリによる空中消火を含む火災対応訓練など17項目の訓練を実施した。

両日ともに、指揮支援隊の活動統制の下、県内応援隊、複数の府県大隊、航空隊及び関係機関が連携した訓練を実施した。

石油コンビナート火災消火訓練では、大容量泡放射システムのほか、ドラゴンハイパー・コマンドユニットを活用したタンク全面火災の消火訓練を実施するとともに、ヘリサット、無線中継車による映像送受信を実施した。

#### 《今後の課題》

訓練車両による渋滞の回避や、夜間訓練を考慮したタイムスケジュールとしたが、ブラインド型訓練としたため、一部で情報に混乱が生じた。また、各関係機関との活動連携について、ブラインド型訓練としたことで相互の活動方針等を十分に共有することが難しかったことから、今後、各関係機関の連携体制について検討する必要がある。

実災害においては、関係機関合同の長時間活動となることから、現地合同指揮所等を設置しての情報共有が必要である。

#### (5) 後方支援活動訓練

テクノポート福井後方支援活動訓練会場において、支援車Ⅰ型及び拠点機能形成車両等を活用したほか、地域ふれあい広場付帯設備等を有効に活用し後方支援活動訓練を実施した。

#### 《今後の課題》

防災拠点として整備した施設を訓練会場として使用し、配置、規模等有効性について検証を実施することができた。



後方支援活動訓練（9日）テクノポート福井

#### 4. おわりに

今回の訓練は、地物、地形を活用し、より実践的な訓練とするほか、各隊が一日目と二日目のできるだけ違う項目の訓練に参加できるように計画した。

福井県においては緊急消防援助隊の受援及び部隊運用、関係機関との連携活動等における課題等が明らかとなり、実災害への対応に向けた大変有意義な訓練であった。

今後、訓練で得られた成果や課題等を踏まえ、緊急消防援助隊の応受援体制の更なる充実強化が必要である。

最後に、本訓練の実施に際し、多大な御支援・御協力を賜りました近畿ブロックをはじめとする各府県、各消防機関、関係機関の皆様へ心より感謝申し上げます。

#### 問合わせ先

消防庁国民保護・防災部防災課 広域応援室  
TEL: 03-5253-7527 (直通)



## 九州ブロック 鹿児島県実行委員会

平成30年度緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練は、過去に鹿児島県が経験した災害に鑑み種子島東方沖を震源とする地震等により県内において大規模災害が発生したことを想定し、九州各県の緊急消防援助隊の効率的な部隊移動及び部隊運用を図るとともに、緊急消防援助隊の使命を自覚し、隊員相互及び関係機関との連携活動を実施することで、有事に際し即応できる体制を確立することを目的とし、鹿児島県東串良町を主会場に次のとおり実施した。

### 1. 実施日

平成30年11月10日（土）・11日（日）

### 2. 実施場所

鹿児島県 東串良町、鹿屋市、志布志市、鹿児島市、曾於市

### 3. 実施内容

#### (1) 訓練想定

平成30年11月10日（土）午前3時頃から鹿児島県の大隅半島を中心に大雨洪水警報が発表され、局地的に強い雨を観測した。こうした状況の中、同日午前9時に種子島東方沖を震源とするマグニチュード7.6の地震が発生し、東串良町及び志布志市で震度6強、鹿屋市、大崎町で震度6弱を観測した。この地震に伴い、大隅半島の各地で被害が発生した。さらに、連動して地震が発生し、鹿児島県太平洋沿岸全域に大津波警報が発表され、志布志湾岸に4メートルを超える大津波が到達した。人的・物的被害が拡大し、鹿児島県内の消防力のみでは対応が困難なことから、緊急消防援助隊の応援要請を行うこととした。

#### (2) 消防応援活動調整本部等設置運営訓練

想定地震発生後に、鹿児島県庁に鹿児島県災害対策本部及び消防応援活動調整本部を設置し、被災地（東串良町）の災害対策本部及び大隅肝属地区消防組合、大隅曾於地区消防組合に設置された緊急消防援助隊指揮本部において、応援要請に係る情報伝達、受援調整及び緊急消防援助隊の部隊活動調整について図上訓練を実施した。

#### 《今後の課題》

実働機関や航空運用調整班の配置が消防応援活動調整本部と近接していなかったため、迅速かつ十分な情報共有を図ることができなかった。今後は、実災害を想定したレイアウトで実施する必要がある。

緊急消防援助隊の活動内容や場所を検討するためにも、災害状況把握と必要な情報の取捨選択も必要である。



被災地初動対応訓練（10日）鹿児島県庁

#### (3) 【訓練1日目】 部隊進出訓練、統合機動部隊による部隊運用訓練、夜間偵察・情報収集訓練

県内3箇所を進出拠点とし、管轄消防本部による受援対応訓練を実施した。また、統合機動部隊は各県大隊との別参集により先行して出動し、サテライト会場において部隊運用訓練を実施したほか、管内の海上自衛隊航空基地を活用した自衛隊航空機（C-1輸送機）による福岡県大隊指揮隊の車両積載・輸送訓練も実施した。また、日没後に翌日の部隊運用訓練会場においてドローンを使った夜間偵察・情報収集訓練を実施した。

#### 《今後の課題》

各県大隊が同じルートで進出してくることを予想し、時間設定や大隅縦貫道出口の指定、渋滞緩和のため信号機の操作をしたが、対策を施した交差点においては目立った渋滞は起きなかった一方、それ以外の交差点において渋滞が発生していたため、部隊の進出ルートについて今後検討する必要がある。



石油コンビナート災害対応訓練（10日）志布志国家石油備蓄基地



#### (4) 【訓練2日目】部隊運用訓練

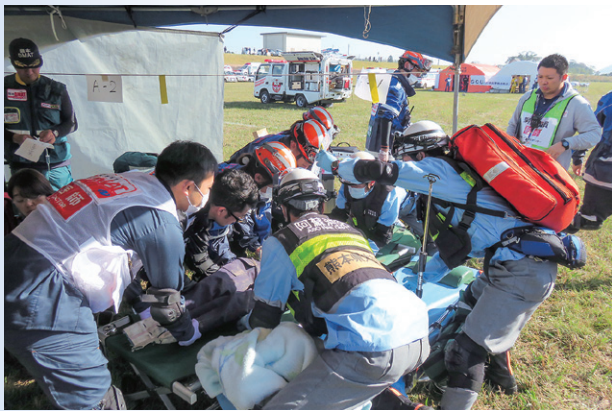
指揮支援部隊長の部隊統制の下、メイン会場の東串良町俣瀬橋河川敷において地震・津波被害を想定した各種訓練を各関係機関と連携して実施した。

道路啓開訓練では災害現場への進出経路被害が懸念される地域における早期の進出経路を確保するため、自衛隊と民間事業者が協力した訓練を実施したほか、津波倒壊家屋救出訓練では、水利施設が被災した津波浸水域での大規模火災を想定し、民間団体の協力による水利確保の訓練を実施した。

また、被災地外への傷病者搬送に支障をきたす地域であり、災害により地域医療施設が機能しない状況が想定されることから、広域搬送拠点臨時医療施設（SCU）を設置し、ヘリコプターによる搬送訓練を実施した。

#### 《今後の課題》

津波災害を想定し活動制限を課した訓練であったが、車両走行や部隊活動の制限などにより一部で混乱が生じていた。また、ミキサー車による水利を確保するためには、多くのミキサー車の手配が必要と明らかになり、今後、関係機関との連携など水利確保の手法について検討していく必要があると認識した。



仮想病院及びSCU搬送訓練（11日）東串良町俣瀬橋河川敷



市街地火災消火訓練・空中消火訓練（11日）東串良町俣瀬橋河川敷

#### (5) 後方支援活動訓練

メイン会場とは別に、東串良町民運動場において後方支援活動訓練を実施した。

また、受援消防本部においては、危険物仮貯蔵・仮取扱所を設置し、給油訓練も実施した。

#### 《今後の課題》

受援計画において宿営場所としている施設を訓練会場として使用し訓練を実施したが、除染場所の設置・配置、トイレの不足時の対応や衛生面等の課題について検証する必要がある。

#### 4. おわりに

今回の訓練には、九州各県緊急消防援助隊の他、自衛隊、海上保安庁、県警察本部、九州各県DMATなど多数の関係機関の参加をいただいた。災害時における迅速な対応及び安全・確実な活動には、関係機関との連携活動は必要不可欠であり、本訓練を通じて各機関が「顔の見える関係」を構築することができた。

また、鹿児島県における緊急消防援助隊の受援及び部隊運用、関係機関との連携活動等を検証するよい機会となり、実災害への対応に向けて大変有意義な訓練であったと考える。

今後、今回の訓練で得られた成果や課題等を踏まえ、緊急消防援助隊の応受援体制の更なる充実強化に努めていく必要がある。

最後に、本訓練開催に際して、多大な御協力を賜りました九州ブロック各県、参加いただいた関係機関の皆様へ心より感謝申し上げます。

#### 問い合わせ先

消防庁国民保護・防災部防災課 広域応援室  
TEL: 03-5253-7527（直通）